

「臨床心理学コース」 —入試・学び・進路—

東北大学大学院教育学研究科
教育心理学講座
臨床心理学分野

本日の流れ

- コースの説明 20分程度
- 個別対応 20分程度
 - 教員複数名が対応します。
 - 場所はこの部屋です。

1. 入試

- H16-R8年度入試 過去23年間 1008名受験
313名合格
- 全体の倍率としては、 $1008/313=3.2$ 倍
- 近年では15名前後が合格
- 第1期試験で11名前後、第2期試験で4名前後
- 過去問はweb／教務係へ

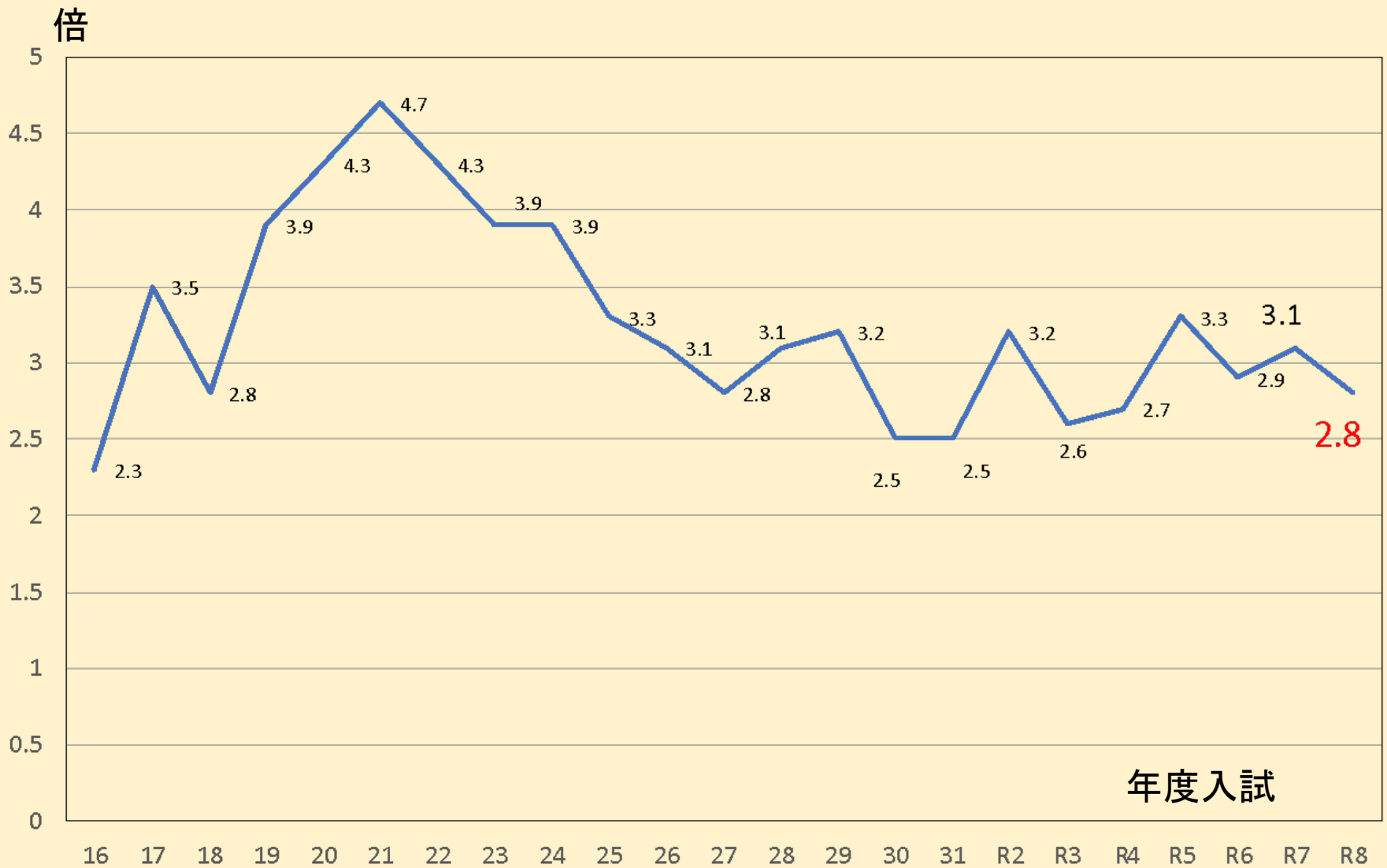


図. 臨床心理学コース（博前）の倍率の推移

実数でい
えば

| 年度 | 合格者 | 不合格者 | 受験者数 |
|----|-----|------|------|
| 16 | 10 | 13 | 23 |
| 17 | 11 | 27 | 38 |
| 18 | 12 | 22 | 34 |
| 19 | 12 | 34 | 46 |
| 20 | 11 | 36 | 47 |
| 21 | 13 | 49 | 62 |
| 22 | 12 | 40 | 52 |
| 23 | 13 | 38 | 51 |
| 24 | 13 | 37 | 50 |
| 25 | 12 | 28 | 40 |
| 26 | 12 | 25 | 37 |
| 27 | 15 | 27 | 42 |
| 28 | 16 | 35 | 51 |
| 29 | 15 | 33 | 48 |
| 30 | 15 | 22 | 37 |
| 31 | 15 | 22 | 37 |
| R2 | 14 | 31 | 45 |
| R3 | 16 | 26 | 42 |
| R4 | 18 | 31 | 49 |
| R5 | 16 | 37 | 53 |
| R6 | 16 | 30 | 46 |
| R7 | 14 | 30 | 44 |
| R8 | 12 | 22 | 34 |

合格 不合格

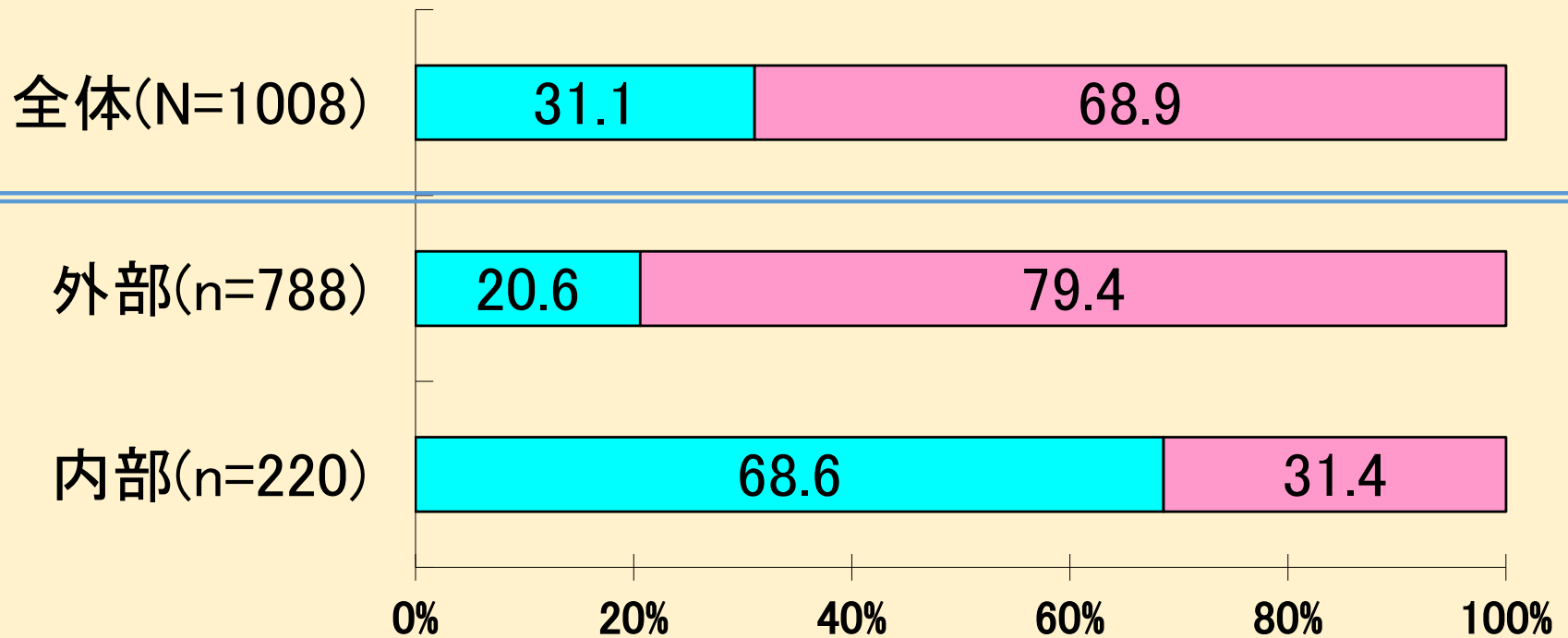


図. 一般入試の合否(H16-R8): 内部・外部別

(内部=東北大学教育学部)

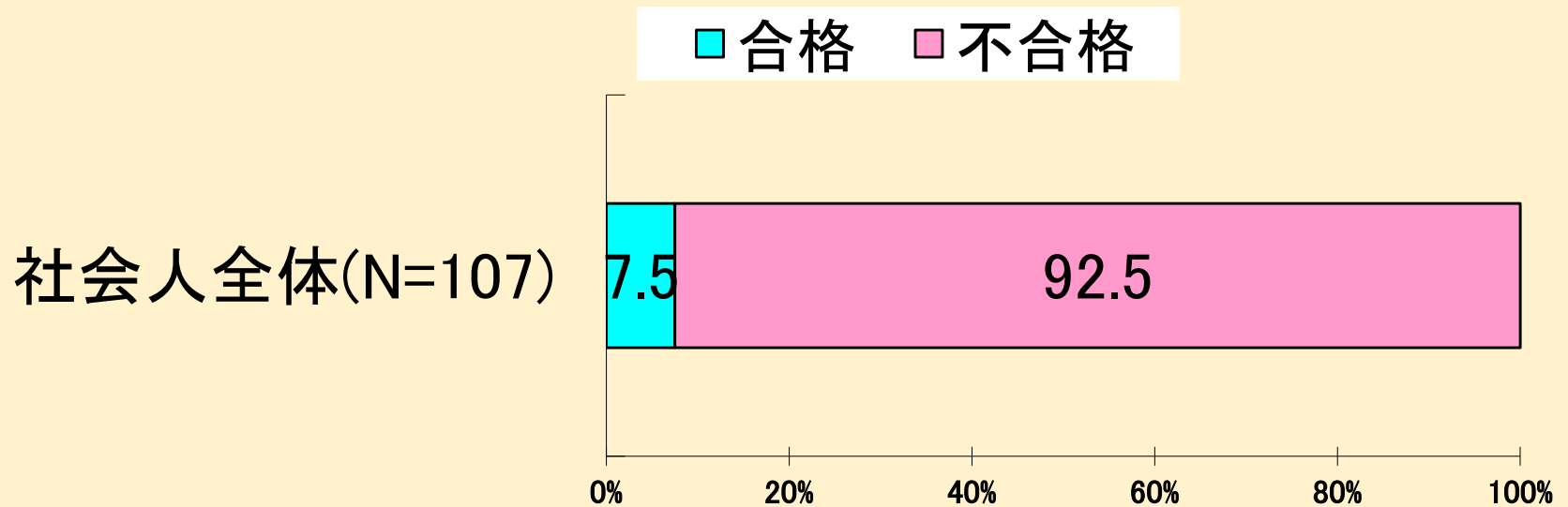


図. 社会人入試の合否(H16-R8)

合格者8名の内訳：

仙台市職員（心理職）、宮城県教員、
 宮城県職員（心理職）、医療法人心理職員、
 製薬会社MR、理学療法士

※専門試験があり、一般入試と同一です。
 ※社会人経験者でも一般入試で合格する人も
 います。（英語が得意な場合など）

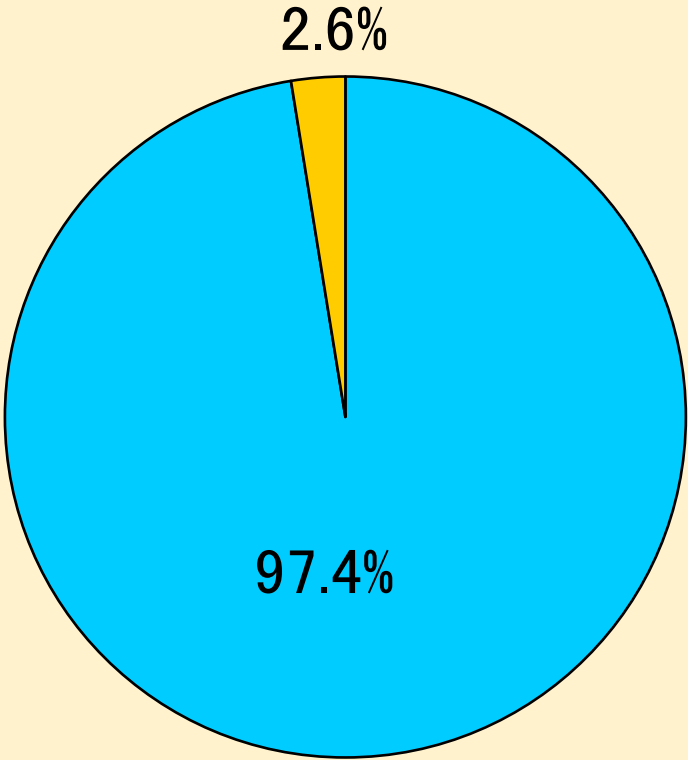
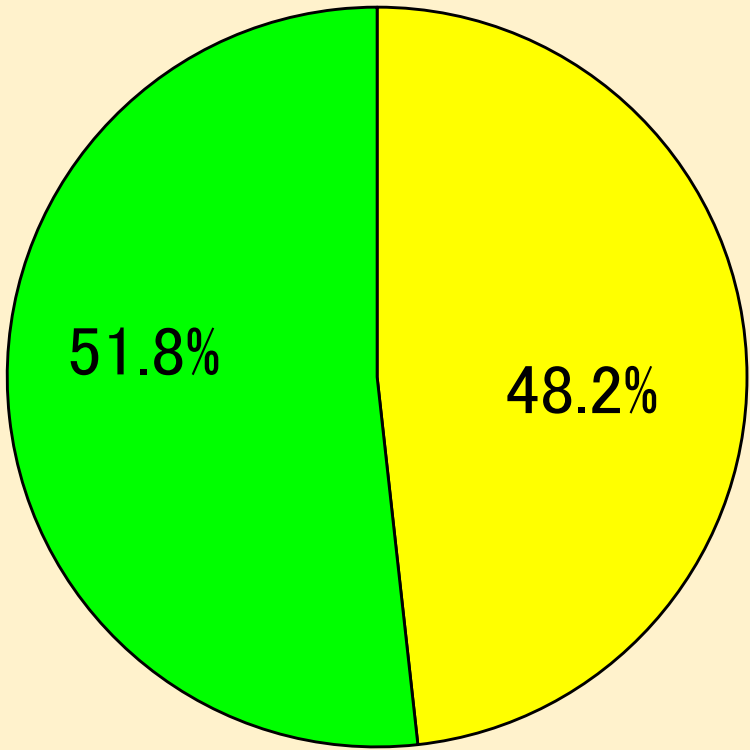
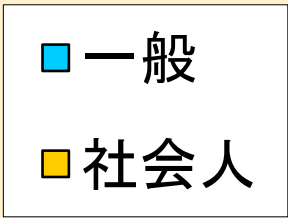


図. 合格者313名の内訳(H16-R8)

表. 合格者313名の出身大学

| | | |
|-------|--------|--------------|
| 東北 | 広島 | 神奈川 |
| 宮城教育 | 横浜国立 | 梅花女子 |
| 福島 | 茨城 | 聖心女子 |
| 弘前 | 佐賀 | 聖徳 |
| 秋田 | | 名古屋学院 |
| 岩手 | 東北学院 | 法政 |
| 山形 | 東北福祉 | 日本女子 |
| 北海道 | 宮城学院 | 京都女子 |
| 北海道教育 | 仙台白百合 | 東京女子 |
| 筑波 | 尚綱学院 | ルーテル |
| 千葉 | 白鷗 | 関西学院 |
| 東京学芸 | 国際基督教 | 北里 |
| 新潟 | 産業能率 | (中国)西南大学 |
| 金沢 | 早稲田 | (中国)山東大学 |
| 名古屋 | 慶應義塾 | (中国)東南大学 |
| 愛媛 | 立教 | (中国)福建医科大学 |
| 京都 | 立正 | (中国)華中科技大学 |
| 大阪 | 青山学院 | (中国)聊城大学 |
| 上越教育 | 上智 | (英国)York大学 |
| 岐阜 | 立命館アジア | (米国)カンザス州立大学 |
| 香川 | 明治 | (韓国)忠南大学 |

※学部での専攻が
心理学とは限らない。

- 法学
- 哲学
- 文化人類学
- 宗教学
- 福祉学
- 教員養成
- 教養
- 数学
- 日本語
- 国語学
- 農学

2. 学び

- 8名の教員。
- 臨床心理士第1種指定校
- 公認心理師にも対応
- 博士課程後期を有する
アカデミック指向
先輩からの支援
- 図書館、TA制度、研究助成など大規模大学のメリット
- 地下鉄利用可
- 院生室
- 学内実習：「臨床心理相談室」
- 学外実習：バラエティに富む

博士課程前期のプロセス

- 前期1年次 (M1)

- 指導教員・副指導教員の決定 (4月初旬)、単位取得

- 修論への取り組み

- 「課題研究論文」提出 (1月31日)

- 臨床心理相談室でのケース担当 (夏以降)

- 学外実習: 9月・2月 (大学病院)

- 前期2年次 (M2)

- 修論への取り組み、単位修得、就職活動、

- 臨床心理相談室でのケース担当、学外実習 (希望する施設へ)

- 「修士論文題目」提出 (6月30日)

- 「修士論文」提出 (1月10日)



教員紹介



若島 孔文 教授

- コミュニケーション理論（語用論）、システム理論（統合情報理論の社会システムへの応用を含む）、社会的相互作用理論などに基づき、心理療法場面、家族関係（動物を含む）、カップル関係、折衝交渉などの研究をしています。その他、産業・組織におけるストレス、惨事ストレス、災害やコロナ感染不安、不登校、ひきこもり、強迫神経症などの研究を行っています。
- 臨床に関しては、ブリーフセラピー（短期療法）、家族療法、森田療法、行動療法を専門とし、ダブル・ディスクリプション・モデル（DDM）、スリー・ステップス・モデル（TSM）、シングル・セッション・ソリューション（3S：スリー・エス）という援助モデルを提示しています。

安部 英勇 准教授

- これまで、ソーシャルサポート、大学生の不登校、高齢者の鬱の問題、移民の適応などをテーマにマクロな視点から心理的適応について探求してきました。
- 現在は、病気対処行動・保健行動についての研究に従事し、また、学校場面でのいじめ問題について取り組んでいます。



教員紹介



本多 奈美 准教授

- 精神科医、**児童精神科医**としての臨床経験を基礎に、児童精神医学、臨床心理学、**小児外科疾患**を持って生まれたお子さんとご家族の**心理的問題**とケア、バウムテストを含む**描画療法**や箱庭療法といった**表現療法**、V.E.Franklの**ロゴセラピー**、**性被害や虐待のPTSDへのケア**などについて学びを深めていきたいと思っております。

吉田 沙蘭 准教授

- **がん**をはじめとする身体疾患をもつ**患者さんとそのご家族**の、心理的な問題の軽減を目指した研究をしています。
- 中でも**小児がん**が専門で、未成年の患者に病名や病状、治らないことなどを**どのように伝えるべきか**、といったことを研究してきました。
- 最近では、医療者が丁寧に説明をしても不合理な（ように見える）選択をしてしまう患者さんがいるのはなぜか、患者さんにとってより良い**意思決定**を可能にするためにどのような関わりが必要なのか、などについての研究も始めています。



教員紹介



前田 駿太 准教授

- 对人的なストレス（嫌な出来事）を経験した後の心理・生理的反応の持続に関連する認知的要因について、主に実験法を用いて研究してきました。最近ではストレスが私達の認知・行動に与える影響についても関心を持っています。

シュレンペル レナ 講師

- 心理的な悩みやメンタルヘルスの問題を持つ人が、専門家に援助を求める「援助要請行動」について研究しています。特に、心理的な悩みを持つ人が専門家に相談しやすくなるにはどのような対策が有効かについて検討しています。最近ではICTを活用した対策が盛んにおこなわれていますが、メンタルヘルスに関する情報提供ウェブサイトや、オンライン心理支援が援助要請行動を促進するかについて、その有効性を検証しています。



教員紹介



坂本 一真 助教

瀬戸 萌 助教

- **青年期の友人関係**に関心があります。これまで、日常の人間関係にあふれる「**いじり**」というコミュニケーション現象をテーマに研究を行い、どのような条件が揃うと「いじり」が人の心を傷つける凶器になるのか、「いじり」が**精神的健康**や**社会適応**にどのような影響を与えるのかを研究してきました。
- その他にも、**家族システム**に関する研究を行ってきました。

- **災害後の心のケア**に関心を持ち、東日本大震災後の心理的影響とその支援のあり方に関する研究を行ってきました。
- また、**医療現場**における心理支援や**アウトリーチ支援**にも携わり、個人のこころの問題だけでなく、その人を取り巻く**家族・地域・社会**とのつながりを含めたより良い支援のあり方に関する研究に取り組んでいます。

2026年度の学外実習

医療領域

- 東北大学病院（全員参加×4週（希望の2診療科×2週））
- 仙台健康推進センター/JR仙台病院(2名×10日)
- せんだんホスピタル（4名×8日）
- 東北会病院(2名×8日)
- 仙台市精神保健福祉センター（2名×5日）
- 宮城県立精神医療センター(2名×5日)
- 国見台病院(2名×5日)
- 宮城県立がんセンター(2名×5日)
- 石巻赤十字病院(3名×5日)
- 緑ヶ丘病院（1名×5日）
- 名取駅東口クリニック(2名×12日)
- せんだいG&Aクリニック(6名×10日)

福祉領域

- 小松島子どもの家（児童心理治療施設）（全員参加×1ヶ月(8日)）
- 宮城県子ども総合センター（2名×6日）
- 仙台市精神保健福祉総合センター（2名×5日）
- 宮城県中央児童相談所（1名×8日）
- 仙台市児童相談所（1名×5日）
- 仙台市北部発達相談支援センター（2名×5日）
- manaby（就労移行支援事業所）（2名×8日）
- ハビー仙台教室（児童発達支援・放デイ）（1名×7日）
- ハビー仙台長町南駅前教室（児童発達支援・放デイ）（1名×7日）
- チャイルドラインみやぎ（6名×15日）

教育領域

- 仙台明成高等学校（4名×5日）

産業領域

- ジャパンEAPシステムズ東北支社(3名×5日)
- アビリティーズジャスコ(2名×5日)
- IFBTカウンセリングオフィス仙台(4名×8週、随時)

司法矯正領域

- 仙台少年鑑別所（全員参加×1日見学）

修士論文(R6-R7年度) タイトル

・ 若島教授 指導学生

□ R6

- ✓ 娘の精神的自立と母親の受容行動についての研究
- ✓ 中国の家族構造と心理的健康の関連—一人っ子の自立による影響—
- ✓ 親の子どもへの期待及び家族機能と中学生の不登校傾向の関連
- ✓ 二重拘束的体験がメンタライゼーションを介して社会的適応に与える影響
- ✓ 幼児期前期における異なる母子間境界の機能の検討
- ✓ —関係性の世代間伝達から捉えた実証研究—
- ✓ 「虹の橋」が悲嘆反応と感情にもたらす影響について
- ✓ —イヌとネコの遺族を対象に—

□ R7

- ✓ 社会環境の変遷によるつながりの変化がアタッチメントと精神的健康に与える影響についての研究
- ✓ ストレスフルな出来事からの主観的回復尺度の開発
- ✓ 精神疾患患者の家族から捉える「その人らしさ」認識尺度の開発—うつ病患者の家族を対象にして—
- ✓ 教師の人生に対する満足感に関する研究—セイバリング信念および仕事への意味付けの観点から—
- ✓ 小学校における逸脱場面の構成過程に関する研究
—教師の対処行動を手がかりとした周囲の児童の逸脱認知と対処行動の検討—
- ✓ 解決志向短期療法におけるコンプリメントに関する質的検討
—AIロールプレイツールを用いた臨床家の実践から—
- ✓ ユーモア・マインドと森田療法の鍵概念「あるがまま」の関連—不安の影響を考慮した検討—
- ✓ 一般成人における精神疾患の説明モデルを包括的に測定する尺度の開発

安准教授 指導学生

□R6

- ✓児童相談所職員のストレスと緩和要因の分析
- ✓大学生の相談行動に及ぼす相談相手の特性の検討
 - 悩みの対処行動スタイルに注目して—
- ✓休憩が労働者のストレスと感情に及ぼす影響の研究
 - 休憩時間の長さと活動内容に着目して—
- ✓ファンの行動と精神的健康の関連—日常的対人関係に着目して—

□ R7

- ✓ 青年期の自己愛傾向と適応感との関連性の検討
 - 自己評価および反映的自己評価に着目して—
- ✓ 親子間における推し活の共有が主観的幸福感および親子関係の質に与える影響の検討
- ✓ 「赤ちゃんの予期せぬ死」と共に生きる —語り合い法から描く遺族の生の「質感」—
- ✓ 大学生のASD傾向と過剰適応傾向を媒介する要因の検討

本多准教授 指導学生

□R6

- ✓職業性ストレスと人生の意味・目的意識との関連
 - 不本意型非正規雇用労働者に焦点を当てて—

吉田准教授 指導学生

□R6

- ✓ 自己臭関係付け症症状を有する者の専門機関利用に関する実態調査
- ✓ 患者の看取り経験に伴う医師の無力感への対処プロセス

□R7

- ✓ Duchenne型筋ジストロフィー患者が病気の理解に至る過程

前田准教授 指導学生

□R6

- ✓ デイリーハッスルズと衝動性との関連—デイリーアップリフツに着目して—
- ✓ セルフヘルプ形式による慈悲の瞑想がストレス耐性に及ぼす影響

□R7

- ✓ フードデリバリー利用と過食行動との関連

3. 進路

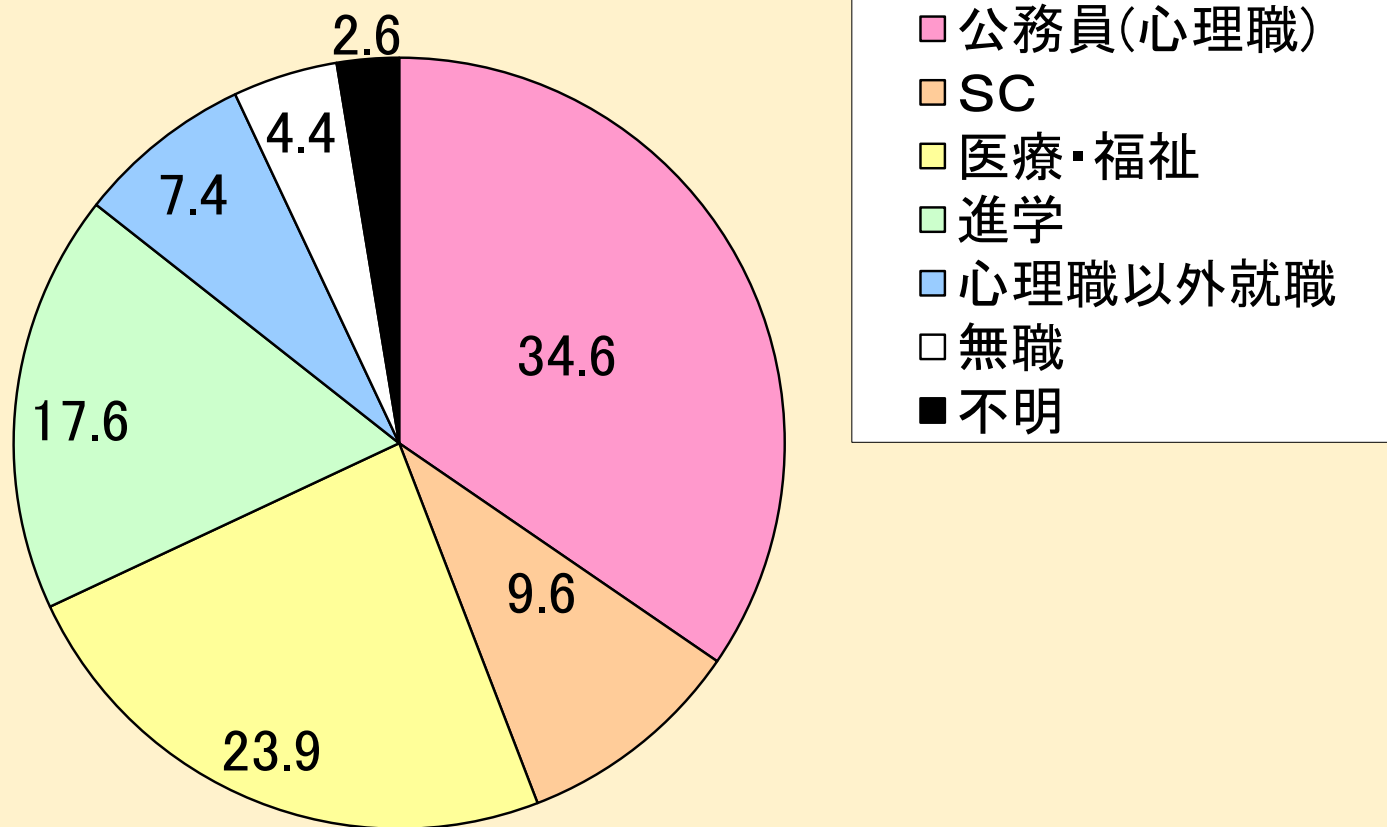
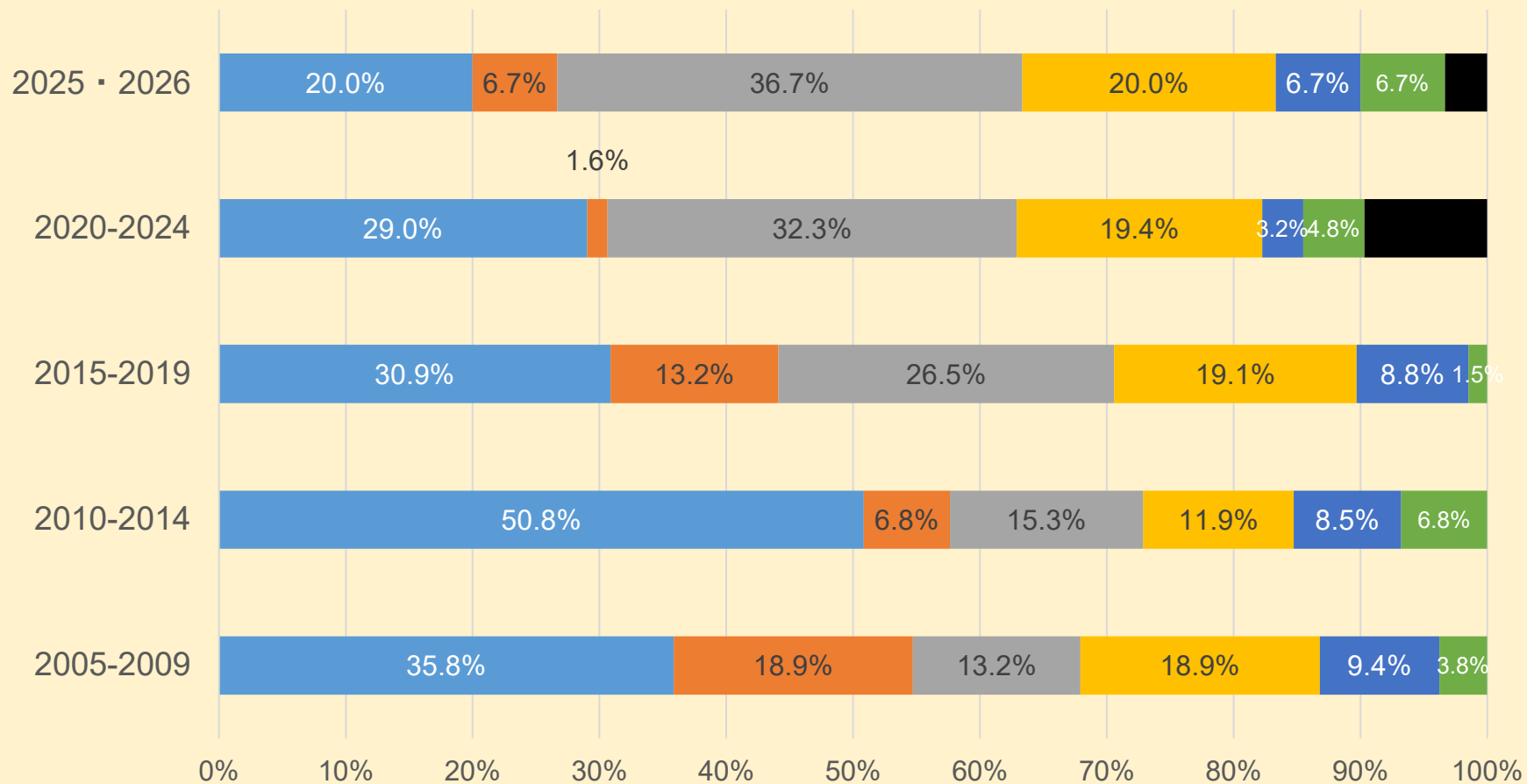


図. 修了時の進路(H17-R7修了生272名)

※非常勤も含まれます

進路の変遷



■ 公務員(心理職)

■ SC

■ 医療・福祉

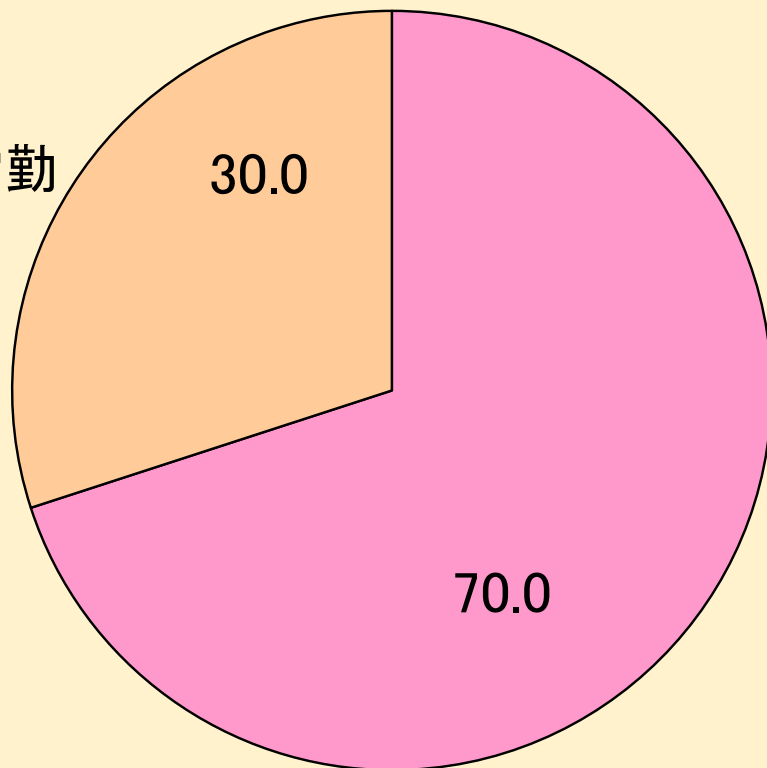
■ 進学

■ 心理職以外の就職

■ 無職

■ 常勤

■ 非常勤

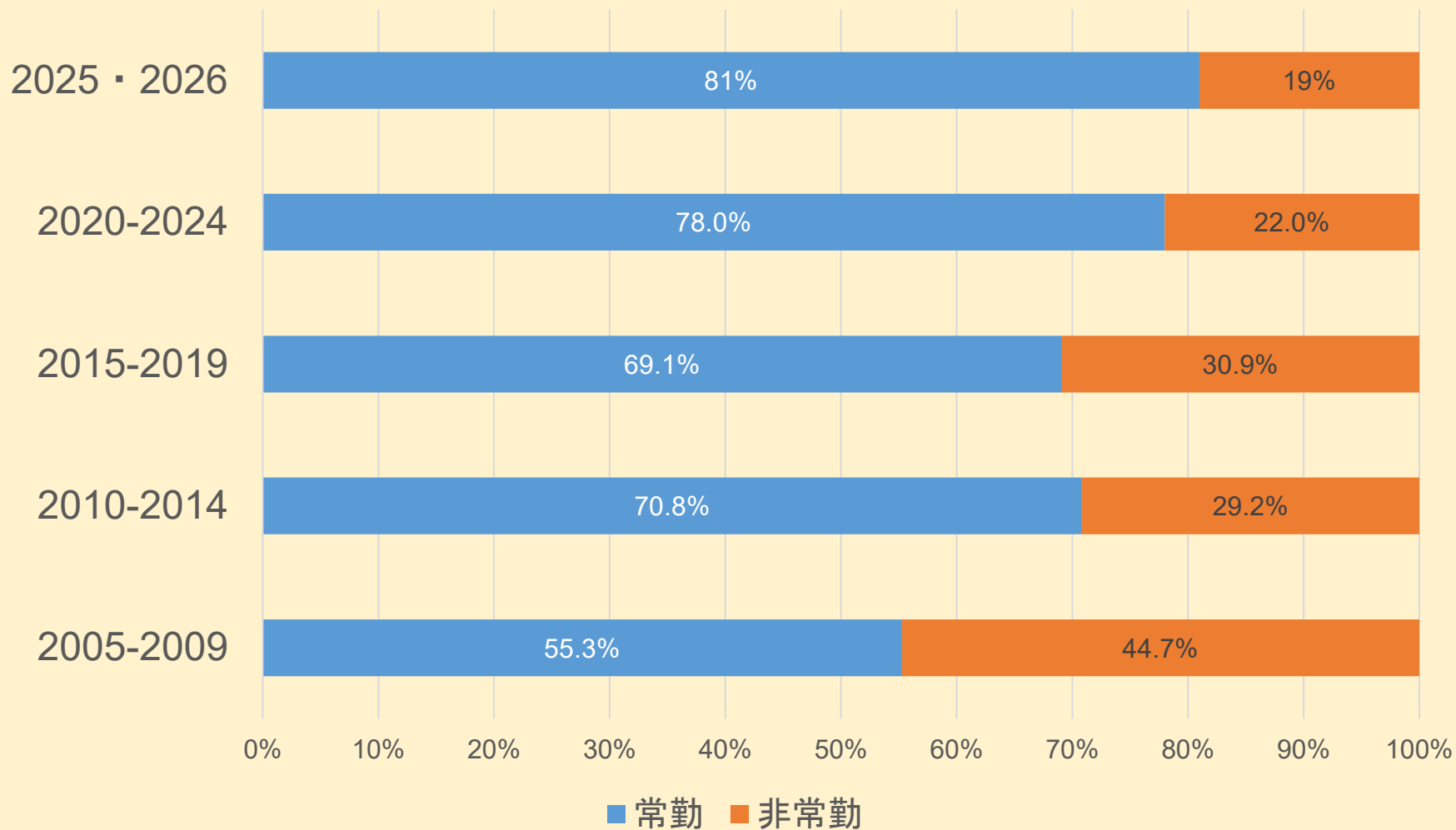


常勤(142名)の内訳

| | |
|-------------|-----|
| 仙台市(心理職) | 13名 |
| 宮城県(") | 8名 |
| 東京都(") | 11名 |
| その他自治体(") | 16名 |
| 法務省 | 4名 |
| 厚労省 | 1名 |
| 法務技官 | 7名 |
| 法務教官 | 1名 |
| 家庭裁判所調査官 | 4名 |
| 保護観察官 | 2名 |
| 民間医療施設 | 33名 |
| 民間福祉施設 | 22名 |
| 東北大学職員 | 3名 |
| 学校教員 | 4名 |
| 公務員(行政職) | 1名 |
| EAP | 5名 |
| 民間企業 | 8名 |
| 僧侶 | 1名 |

図. 修了時の進路: 常勤・非常勤
(H17-R7修了生: 就業者203名)

常勤率の変遷



博士課程後期

- 毎年3名前後入学
- 英語の長文読解が難
- 「特定研究論文Ⅰ」(D1)
- 「特定研究論文Ⅱ」(D2)
- 博士論文執筆資格審査 (D3)
- 論文3本以上
- 3-4-5-6・・・年で修了
- 就職先は大学教員など
- すんなり決まる人、苦戦する人

Q & A

- 自分の○○というテーマが研究ができるのか？
指導教員としては誰が近いか？
- 研究室訪問した方がいいのか？
- 出産予定だが、授業は大変か？
- 社会人をつづけながら修学できるか？
- 病院臨床に将来就きたいが、就職状況はどうか？

受験前にできれば個別にご相談を

- 若島 教授 : kobun.wakashima.d3@tohoku.ac.jp
- 安保 准教授 : hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp
- 本多 准教授 : nami.honda.b3@tohoku.ac.jp
- 吉田 准教授 : saran.yoshida.d6@tohoku.ac.jp
- 前田 准教授 : shunta.maeda.d2@tohoku.ac.jp
- シュレンベル講師: schlemper.lenna.d7@tohoku.ac.jp

アンケートの提出をお願いします。個別に相談したい方は残ってください。